

原告

意見陳述

2025年5月29日

中学2年生の時に、すごく応援したいと思った政治家の方がいました。僕は新宿区に住んでいて、当時は明治神宮外苑の再開発、樹木伐採が話題になっていた時でした。よく近くを通っていて、すごく好きな場所なので、切らないでほしいなと強く思っていました。同じタイミングで新宿区長選挙がありました。その時出馬されていた候補の方は「小中の給食費を無償化します」「トー横の子どもを守ります」「神宮外苑の再開発を中止します」僕が新宿に求めていることを全部言ってくださる方でした。

友だちの中にも歌舞伎町にいつもいる子がいて、その子を守ってほしいという気持ちもあって、僕にとってはその方の演説を聞いたのが「政治が自分ごと化」された瞬間でした。「応援したい」と思いました。

すぐにその候補の元に行ってお手伝いされてください。とお願いしました。そして、こう言われました。

「ありがとう。だけど、未成年の子は選挙の手伝いができないんだよ。」衝撃でした。

「自分に関わる話に、選挙に関わるできないんだ」とすごく悲しくなりました。

家族にも政治に関心のある人が多く、僕も自然と関心を持つようになりました。特

に小学生の頃から毎年8月に放送される太平洋戦争のドキュメンタリーを見ていてこともあって、「戦争」というのを強く意識していました。ちょうど、敵基地攻撃能力の保有と増税による防衛費増額がまさかの閣議決定で決まった頃でした。そんな頃に、ネットでその反対デモが開催されることを知った僕はまた、「応援したい」と思ってしまいました。すぐに主催の方に参加したいと連絡して、スピーチをさせていただきました。それを新聞にも取り上げていただきました。ですが、その新聞のネット版が荒れてしまいました。「中学生を使って御涙頂戴するな」「それを引き受ける中学生にも呆れる」といった声がたくさんありました。ものすごくショックでした。

中学生だという理由で、自分が行動を起こそうと思うまでたくさん考え、たくさん悩んだことは無かったことにされて、「大人に唆されるなんて情けない」とまで言われるのもすごく悔しかったです。

ですが、僕は懲りませんでした。中3になってすぐの統一地方選挙で、毎朝学校の最寄駅で街宣している市議会議員候補の方の体験と、社会を変えたいという思いにすごく感銘を受けて、「応援したい」とまた思ってしまいました。既に「選挙期間中未成年は関われない」というのを知っていたので、選挙期間外以外手伝わせてくださいとお願いし、その人の街宣の手伝いなどをしました。やっとやりたかったことができた、満足感を感じながら活動していました。

だったのですが、初めて数日たった時、応援していた方の対立陣営の方から、未成年を運動させるのはダメではないか。と言われました。未成年者の選挙運動には「罰則」があるということを僕はその日初めて知りました。逮捕されないかなとすごく怖くなり、その日から手伝いをやめました。あの時の恐怖が忘れられなくて、もう2年間、政治家の方の手伝いなどはしていません。手伝いをしたいと思うと辛

くなるので政治家の方の話を自分から一生懸命聞くことも最近はしていません。

調べてみたところ、大人が子どもを利用するのを防ぐため。とのことでした。確かに、大人が子どもを利用して政治活動をしたらそれは大問題です。ですがそれは、子どもを利用した大人を罰することで解決できる問題ではありませんか？僕だって日本で暮らしていて、消費税だって払っています。

思ったことを主張するのを我慢しなければいけないなんて間違っていると思います。政治に関心を持って行動までしたいと思った中高生を黙らせておきながら、18歳になった瞬間、「選挙に行こう」「日本の若者は政治参加しなくて困る」これは矛盾ではありませんか？

僕の政治に対するスタンスは、両親や祖父母から影響を受けたものかもしれません。でも、僕が本気で応援した気持ちは本物です。その気持ちを行動に移したら、法律違反だと批判される。そんな世の中で、若者が政治に関心を持つはずがありません。子どもだって、社会の一員だと認められることを心から願います。

以 上